

## 【今月の問い】

Q. ニュースダイジェスト **2025年10月号** で紹介した以下の記事を読み、以下の①～③について考えよう。

### ●クマによる被害多発 対策急務

各地でクマによる人身被害が多発するなか、政府は関係閣僚会議を開き、被害防止に向けた対策の強化に乗り出した。ハンターの確保や児童生徒の安全確保、観光への影響などを包括的に検討。出没が相次ぐ地域では、住民の外出もままならない状態が続いている。クマによる死者は、10月30日時点で過去最多の12人。人を襲ったクマが民家に侵入して居座る事案や学校の敷地などにクマが出没するケースも相次いでいる。また、秋の行楽シーズンを迎えるなか、世界文化遺産の白川郷合掌造り集落で知られる岐阜県白川村では、観光中のスペイン国籍の男性がクマに襲われる被害が発生。村は外国人観光客に英語などで出没情報を周知する看板を設置した。英国政府は公式ホームページで、渡航者に注意を呼びかけている。観光地では集客への影響を懸念する声も多く、国土交通省が観光客の安全対策について検討を進めている。

(ニュースダイジェスト 2025年10月31日より)

① 生物多様性条約とはどんな条約だろうか？

② 観光地でのクマ被害はどんな地域に影響を与えるだろうか？

③ ネイチャーポジティブに対して社会ができることはどんなことだろうか？

※次ページの解説も参考にしよう！

## 今月のSDGs

※ 北九州市立大学 地域創生学群 教授 眞鍋和博先生に、ゴール 15 について解説いただきました。

15 陸の豊かさを守ろう



### 陸の豊かさを守ろう

近年、日本各地でクマによる人身被害が増えています。政府や自治体はハンターの確保や児童生徒の安全対策、観光への影響などを考慮し、緊急の対応を進めていますが、クマが学校や民家に侵入する事例もあり、地域住民の生活に深刻な影響を与えています。クマ被害への対応は単なる危険動物の排除ではなく、私たちの社会と自然環境の関係を考える重要なきっかけになります。

なぜクマの出没が増えているのでしょうか。背景には里山の荒廃や過疎化、森林管理の不行き届きなどがあります。人間が利用していた山林が放置されることで、クマの食べ物不足や生息域の変化が起こり、クマが人間の生活圏に近づいてしまうのです。これは生態系のバランスが崩れている証拠であり、生物多様性の保全が不十分であることを示しています。

ここで、生物多様性条約や日本の生物多様性国家戦略が重要になります。これらは、自然と共生する社会をめざし、種の保全や自然の持続可能な利用を推進する国際的・国家的な取り組みです。また、近年注目されている「ネイチャーポジティブ」という考え方も大切です。これは、生物多様性の損失を止めて、回復に反転させるという理念です。これらの点から言うと、森林の適切な管理や地域資源の活用を通じて、クマの生息域と人間の生活圏を調和させることが求められます。

この問題はSDGsとも深く関係しています。特に目標15「陸の豊かさを守ろう」には、生物多様性の保全が深く関係しています。また、目標11「住み続けられるまちづくりを」や目標12「つくる責任 つかう責任」にも関連します。地域社会が主体となり、持続可能な土地利用や観光と自然保護の両立を図ることが必要です。さらに、目標4「質の高い教育をみんなに」も重要でしょう。学校教育で、生物多様性や人間活動との関係を学ぶことで、次世代が環境問題に主体的に取り組む力を育てることができます。

クマの出没問題は、単に被害防止や安全対策について考えるだけでなく、自然と人間の共生を考える課題です。SDGsの視点から、私たちの生活と環境のつながりを理解し、持続可能な社会をつくるために何ができるかを考えていきましょう。